



麻布幼稚園だより 1月号

平成30年1月9日 港区立麻布幼稚園 園長 大島 美知代

『箱根駅伝から』

園長 大島 美知代

新年あけましておめでとうございます。お正月は天気がよく、冷たい風が吹いていましたが、冬の季節らしいお正月だったと思います。お子さんを囲んでご家族で新しい年をお迎えのことと思います。

3学期は保育日数が50日不足という短い学期です。教職員一同、平成29年度の教育活動の締めくくりと意識し、お子さんがますます成長するよう、力を尽くしてまいります。

さて、みなさんはお正月を迎え、どのように過ごしましたか？

「1年の計は元旦にあり」と言われています。元旦に浮かんだのは「みんなが健康で、日本も世界も平和でありますように」という「ありきたり」の言葉でした。この「ありきたり」の言葉、みんなが「当たり前」と思うことこそ大切な人間の基盤だと私は思っています。

幼児教育における「幼稚園教育要領」が改訂され、来年度平成30年度から本格実施になります。改訂の背景は新たな知識や技術の活用による社会の進歩や到来しているAI（人工知能）時代を視野にしたものだと言われています。（「幼児教育じほう」1月号より引用）

幼児期まっただ中の子どもたちもあと20年もすれば社会に出て働く青年となります。現在ある職業も様変わりし、AIに取って代わられる職業も出てくることでしょう。「そうは言っても、まだまだ20年も先のこと」と言っていていいのでしょうか。急激なAIの進歩、産業界の動向を考えると「まだまだ…」と言って待ってられないようにも思います。

自分を振り返ると、生まれてからの性格、幼児期に感じた親の思いや言葉、背中で教えられたことがこの年になっても自分の根本に生きていと痛感しています。保護者の皆様はどのように感じられたことはありませんか。それだけ幼児期の親の関わりはとっっても大事、「三つ子の魂、100まで」ということを感じています。

お正月に「箱根駅伝」を往復見ました。大学生なので18歳から22歳ぐらいでしょうか。どの大学のメンバーも途中であきらめることなく、自分の大学の襷を次の選手に繋ぐために必死に走っていました。どんな順位でもくさることなく、投げ出すことなく、前へ、前へ歩みを進めました。「駅伝」番組の間に入るちょっとしたコメントに「僕は投げ出すわけにはいかない」という言葉がありました。その時の映像は、自分が小さい時、親と一緒に走り、練習に付き添ってくれた思い出映像や仲間が応援している映像、陸上部員が付添い、水を差し出し、肩を貸してくれた映像が映し出されたように記憶しています。

まさに人生は「駅伝」です。目標をもち、それに向けて自分がいかに頑張るか・自分だけではなく相手の意図や行為の意味を理解するか・他者を思いやるか・自分を生かし、支えてくれた人の思いを感じ、行動できるか・常に学び合い、高め合い、自分を生かせるか…等。このことは決してAIにはできないことだと信じています。『げんきなこ・やさしいこ・かんがえるこ』の教育目標の通り、我々は人生の基本を育てています。まだ20年ぐらいはあるけれど、幼児に係わる我々の関わりはとっっても大切、我々の今の育児はこれからの日本や世界を変える大切な仕事だと思います。その誇りをもち今年1年も共に取り組んでいきましょう。